

# 次世代交通ソリューションの拡大に向けて



今年3月、米国でテスト走行中の自動運転車が起こした初の死亡事故が大きなニュースとなりました。本来、ヒューマンエラーを回避し、交通事故の減少が期待される自動運転の技術ですが、このような理想は車両側に搭載される技術だけでは限界があります。

例えば、路上にあるITS<sup>\*1</sup>スポットなどのインフラの高度化により、車両の死角にある歩行者位置情報など、情報がつながることによって本当の安全は確立できます。OKIは、こうしたインフラ協調型ITSサービス<sup>\*2</sup>を重点分野と位置づけて、事業の拡大を目指しています。

OKIは、長年にわたり道路管理者である官公庁や自治体、道路事業者に対してETC<sup>\*3</sup>やVICS<sup>\*4</sup>などのITSを提供し、その経験とノウハウを蓄積してきました。こうした実績に加えて、OKIの強みであるセンシング、ネットワーク、データ処理・運用の技術が新たなサービスの開発を可能としています。

従来のお客様である道路管理者には、道路の混雑状況把握、安全運転支援などのためにプローブデータ<sup>\*5</sup>を活用したシステムを提供してきましたが、民間企業向けには、「LocoMobi<sup>®</sup>2.0」によって車両や道路情報を活用した新しいサービスの提供を、2017年より開始しています。

今年8月には、国土交通省がETC2.0特定プローブデータ配信事業を開始したことを受け、「LocoMobi2.0」は、ETC2.0特定プローブデータの配信を活用した運行管理支援サービスを開始しました。本サービスでは物流業などのお客様に、ETC2.0車載器の搭載

車両であれば新たな車載端末の購入不要で、車両の走行位置、走行経路、急減速箇所の抽出とヒヤリハットマップ<sup>\*6</sup>の機能を低コストで提供できるようになりました。

また、同月に設立された「まちなか自動移動サービス事業構想コンソーシアム」にも参加し、自動運転車両の安全でスムーズな運行を路側からサポートする自動運転支援サービスの実現を目指していきます。そしてこれらのサービスは、いずれもお客



自動運転支援サービスのイメージ



「次世代交通」の  
詳細はこちらから

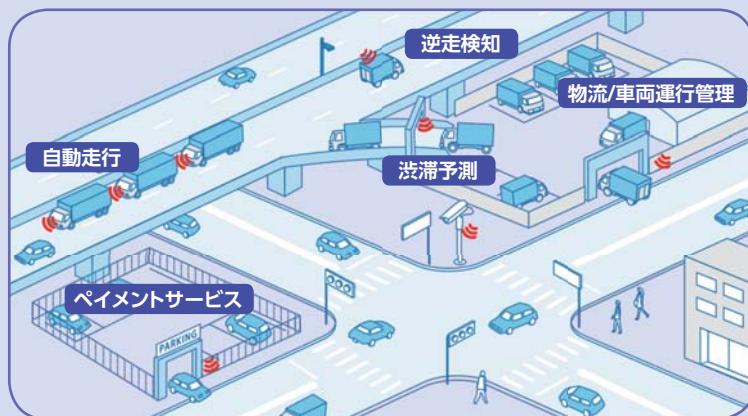




様との共創によって開発しており、今後も共創を推進し新サービス開発に取り組めます。

OKIは、近い将来に到来する自動運転の時代にも、路側システムに関する知見を活かした、安全で利便性の高いソリューションを提供していきます。

- \*1 ITS: 高度道路交通システム
- \*2 インフラ協調型ITSサービス: インフラと車、歩行者などが通信によって接続され運用されるサービス
- \*3 ETC: 自動料金受取システム
- \*4 VICS: 道路交通情報通信システム
- \*5 プローブデータ: 車両から収集される車両の位置情報や挙動情報
- \*6 ヒヤリハットマップ: 事故が起こりやすい場所や区間を道路上に表示した地図



OKIのインフラ協調型ITSサービス

## トピックス

### 「夏休みものづくり工場体験ツアー」を開催

OKIデータMESは、子どもたちのものづくりへの興味や関心を引き出す目的で福島市が主催した「ものづくり教室」に参画し、市内の小学生と保護者向けに「夏休みものづくり工場体験ツアー」を実施しました。

参加した子どもたちは、プリンターの生産ラインに入って組み立てを体験したほか、電動ドライバーを使ってのねじ締めや、自分の描いた絵柄のオリジナルシール、缶バッジを作成するなど、楽しみながらものづくりの現場を体感していました。



プリンターの組み立てを体験する子どもたち

### 福岡県の「テレワークによる障がい者雇用促進検討会議」に参画

OKIワークウェル(OWW)では、独自開発のコミュニケーションシステムとグループワーク制度の導入により、現在全国20都道府県の重度障がい者50名が在宅で、ホームページの作成やイラスト・デザイン制作などの業務を行っています。その先進的な取り組みや知見が高く評価され、福岡県の「テレワークによる障がい者雇用促進検討会議」に委員として参画することとなりました。

2018年4月、企業の従業員に占める障がい者の割合、法定雇用率は従来の2.0%から2.2%へ引き上げられ、企業はより積極的な障がい者雇用を求められています。OWWは福岡県に協力して、テレワークによる障がい者雇用の促進に貢献していきます。